

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	情報処理 I
教科書	情報リテラシーの基礎(切田節子、近代科学社)
補助教材等	
学習上の留意点	
<p>情報処理の基本を習得する。情報処理 I に続いてワープロの応用、表計算の基本および応用を身近な題材を用いた実習を中心にして説明する。パソコンのハードウェアの基本について簡単な仕組みとOSについて説明する。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>情報処理 II では情報処理 I では詳しく学習しなかった表計算のソフトウェアの使い方とハードウェアについて深く学ぶこととなります。表計算は非常に便利なソフトウェアでこれを自由に使いこなせることによって、卒業研究でのデータ処理や社会人として働く際に非常に大きな武器となります。例えば、同じデータ処理をするにも1時間かかる作業を使い方によっては、5分で完了してしまうこともあります。また、ハードウェアについても毎年すごい勢いで進歩していますが、基本的なことはパソコンが普及し始めた時代から変わっていません。ハードウェアの基本的なことが分かることで、パソコンが故障した際にも対処ができることもあります。情報処理 II の授業でこれらのことを習得して今後、皆さんが長く付き合っていないといけないコンピュータを更に身近なものに思ってもらえればと思います。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0. ガイダンス 1. パソコン操作	・学習の意義，授業の進め方，評価方法を説明できる。 ・パソコンの基本的な操作ができる。	
2	2. ワープロ操作	・ワープロソフトによってレポートの作成ができる。	(予習) 教科書87ページ～166ページまで読んでくること。
3	3. 表計算ソフトのデータ入力	・表計算ソフトの基本的な機能が説明できる。 ・表計算ソフトへデータ入力ができる。	(予習) 教科書167ページ～172ページまで読んでくること。
4	4. 表計算ソフトの書式設定	・表計算ソフトの書式設定ができる。	(予習) 教科書167ページ～172ページまで読んでくること。
5	5. 表計算ソフトによる関数計算	・表計算ソフトで四則算ができる。 ・表計算ソフトで統計解析に関する関数計算ができる。	(予習) 教科書178ページ～183ページまで読んでくること。
6			
7	6. 表計算ソフトによるグラフ作成	・表計算ソフトで複数種類のグラフが作成することができる。 ・表計算ソフトで作成したグラフの書式設定ができる。	(予習) 教科書204ページ～214ページまで読んでくること。
8			
9	7. 表計算ソフトを用いた実験データ整理	・表計算ソフトを用いて実験データの整理及びグラフ作成をすることができる。	
10	8. 表計算ソフトを用いたデータベース	・データベースについて基本的な内容が説明できる。 ・表計算ソフトでデータの並べ替え、データの抽出及びピボットテーブルができる。	(予習) 教科書226ページ～243ページまで読んでくること。
11			
12	9. コンピュータのハードウェア	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を理解し活用できる。	
13			
14	10. 総合演習	・全体的な捕捉説明を行う。	
学年末試験			
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を説明できる。	
総授業時間数			30時間